

Title	1966半導体国際学会について
Author(s)	
Citation	物性研究 (1966), 6(4): 165-166
Issue Date	1966-07-20
URL	http://hdl.handle.net/2433/85902
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

国際会議

1966半導体国際学会について

御存知のように来る9月8日より13日迄日曜日を含めて5日間京都市立会館で半導体国際会議 (International Conference on the Physics of Semiconductors) が開かれます。

現在予定されている論文は Review paper が7編、invited paperが17編、contributed paper が124編、計148編で opening session には C. Herring が「Quantum Transport in High magnetic Field」で話をします。Session は Band theory, Quantum transport, Transport phenomena, Hot electron, Electron-phonon Interaction, Impurity conduction, Current Instability, Plasma Instability, Magnetoplasma and Magnetoacoustic Effects, Semimetals, Tunneling Effects, Lattice Optical Properties, Electronic Optical Properties, Magneto-optical Effects, Exciton, Impurity State, Recombination, Magnetic Semiconductors, Superconductivity となつております。半導体研究には線形応答の現象を精密にしらべてその物性を明にする方向と、これから著しく外れた現象 (carrier injection, hot electron, 各種 instability 等) を追う方向とが見かけ上ありますが、半導体研究の特徴はそもそものはじめから、これがお互に相手を求め合い、そして触れ合った所に学問上と応用上の興味がわき又著しい発展が見られたと云えましょう。このような目で今回の学会を眺めますと、特別な high light はなくても大変興味ある動きの前ぶれをうかがうことができます。各種の光学的手段はますます精密になつて、多くの物質群の物性を明にして来ました。少し停滞気味であつた transport properties の研究も high magnetic field, magneto plasma, magneto-acoustic のけで活力をとりもどして来ました。

各種 instability もようやく整理され Industryの舞台への出番を待っていますが、それと同時にようやく高められた物性の精密な知識とのふれ合いによ

国際会議

つてより興味のある physics と device を産む可能性を高めて来ております。
この様な期待が果してどの程度満されるか学会でのたのしみといたしましょう。